

ひろば・ちがさき

No. 932

新政ちがさき

2011年7月8日

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1
市役所内 0467(82)1111

新政ちがさき有志

岸 正明	☎87-8766
こいそ妙子	☎52-6731
和田 清	☎67-5980
よしかわ和夫	☎86-0032
西田 淳一	☎83-7293

子どもたちの

安全と放射能

教育委員会(教育総務部)と意見交換を行った。

☆小学校のプールは大丈夫? 放射能の測定は行っていないが...

プールが始まるこの季節、とんぼの幼虫やおたまじやくしなどを楽しみに例年は子どもたちがプールの清掃を行っているが、今年は、教師たちが中心となりプールサイドや周辺の溝も含めて高圧洗浄を行った。水道水には放射性物質は含まれていないことが確認されているので、教育委員会では当面は安全であるとしている。

☆給食の食材の安全性

について 市のホームページで、食材の産地

(予定)を公表

茅ヶ崎市(PC)↓くらしの便利帳↓教育↓小中学校↓給食↓学校給食用食材の産地 市内のほとんどの小学校は自校給食。日頃からアレルギ

1対応などに配慮し、上質な給食を提供している。現在、薬物は近郊、牛乳の原乳は県内産など食材の安全性にも配慮している。保護者の不安の声に応え公表することとなった。

☆校庭の土壌などの放射能測定の実施について、引き続き会派で要望しているが、市の方針は、下町屋にある県の衛生研究所(モニタリングポスト)の値(約0.05マイクロシーベルト/時)をもつて市を代表するとして、その他の地域や土壌の測定は実施しないということが変わりがない。他の自治体で実施しているのになぜ茅ヶ崎市は実施しないのか?市民から多くの声が寄せられている。県の3箇所モニタリングポストのうちの一箇所が茅ヶ崎市内にあり、機器の精度を考慮すると、市内の他地域では、現状では測定の必要なしとしている。

第2回定例市議会では、原子力発電所事故に関連する2つの意見書が提案された

「原子力発電所事故の早期収束及び再発防止に関する意見書」は、17対9の賛成多数で可決された。わが会派では、この意見書については慎重に検討し、「意見書の趣旨に賛成する」「趣旨には賛成するが、脱原発の方向性が明確でないため反対する」等の議論の結果、議員個人の判断で採決に臨んだ。(会派内賛成は1名)

「原子力エネルギー政策を転換し、再生可能エネルギー政策の促進を求める意見書」の提案(西田議員提案)については、12対14の反対多数で否決された。(会派内賛成は7名)

「茅ヶ崎市役所本庁舎の建替えの賛否を問う住民投票条例」(花田議員提案)は、

会派の和田、小磯、西田議員らが賛同議員となり議員提案として提出したが、賛成8、反対19で否決された。趣旨説明では、①先の市長選挙では、市庁舎の建替えが争点のひとつであったが、建

替えに異論を唱える2候補の得票が有効投票の6割であったこと。この件について「市民の民意を確認する責任」が行政と議会にある。②住民投票の実施により、現庁舎の安全性や防災拠点の必要用件など市民へ知らされていない不透明だったことも説明がされ、明確になるはず。など、夏以降に「基本設計予算」の執行が予想されるこの時期に、巨額の費用を伴う事業について市民の声を聞くため条例を提案したという説明がされた。

討論では、「市民への情報が不足しているなかで行う住民投票では、民意を反映できない」「議員の責務を放棄するもの」「議会ですっかり議論すべき」等の反対意見と「市民にとつて重大な問題、建替えに関してあらためて市民とともに検証すべき」「議会では市民の声が反映されていない、直接市民の声を聞くべき」等の賛成意見があり、この議案についてもわが会派では各議員の立場は異なり、各々の判断で採決に臨んだ。 ☆市議会の様子は市のホームページより映像配信中。